

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社) 日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第 11 号 (2018 年 9 月 10 日発行)

関西地方での台風、北海道での地震による被害に際し、心よりお見舞い申し上げます。
また会員・ご家族の皆様の無事とともに少しでも早い復旧をお祈り申し上げます。

●本号の内容

- ・指導者養成講習会のお知らせ
- ・第 6 回アジア選手権の紹介
- ・スキー0 ユニバーシアードについて
- ・2018 年度全日本大会について
- ・2021 年の世界マスターズオリエンテーリング選手権(WMOC)が日本に決定
- ・来年度の事業方針について
- ・日本地図学会平成 30 年度定期大会シンポジウム報告「オリエンテーリングと地図」
- ・日本体育学会ランチョンセミナー報告

●指導者養成講習会のお知らせ (普及教育委員: 楠見)

現在予定されている講習会は以下のとおりです。申し込み方法等は下記 JOA ホームページよりご確認ください。
<http://www.orienteering.or.jp/event/>

10/13~10/14	インストラクタ養成講習会 (兵庫県)
12/08~12/09	インストラクタ養成講習会 (徳島県)
12/15	第 2 回イベントアドバイザー研修会 (東京都)
12/15~12/16	ディレクタ講習会(静岡県 朝霧野外活動センターを予定)

●第 6 回アジア選手権が香港で開催されます! (副会長: 村越)

2008 年にスタートしたアジア選手権も、今年 2018 年に第六回を迎えます。今回初めて香港での開催となります。

大会は 12 月 22 日にスタートし、ウォームアップイベント (スプリント・ミドル: 22 日)、スプリント (23 日)、ミドル (25 日)、リレー (26 日) の日程で開催されます。シニアやジュニアのアジア王者を決める選手権クラスはもちろん全ての年齢クラスが用意されています。旧街区を使った刺激的なスプリントから香港らしい景観のミドルまで、多様なトレインが参加者をお待ちしています。

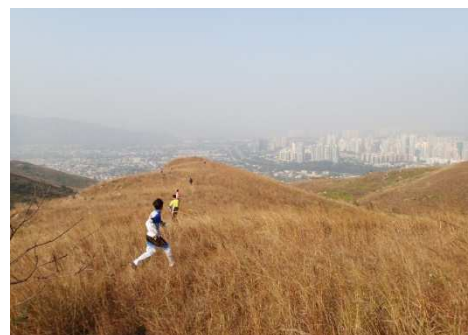
クリスマスから年末にかけては、香港が一番華やぐ季節。モンスーン下で暖かい香港でオリエンテーリングと観光、ショッピングが一度に楽しめます。

以下にウェブサイトが開設されています。

<http://www.oahk.org.hk/asoc2018>

フェイスブックは、

<https://www.facebook.com/asoc2018hk/>



●スキーオリエンテーリング冬季ユニバーシアード (スキー0 委員長: 柴田)

2019 年冬季ユニバーシアード大会が、ロシア・クラスノヤルスクで 3 月 2 日から 12 日間開催されます。

ユニバーシアードでは、バイアスロン、クロスカントリースキー、カーリング、フィギュアスケート、フリースタイルスキー、アイスホッケー、ショートトラックスケート、スキーオリエンテーリング、スノ

ーボードが種目採用されているマルチスポーツ大会となり、2011年のアジア冬季競技大会に続き総合競技大会においてオリエンテーリングが競技採用されたことは、オリンピック種目採用に向けての大きな一歩となっています。

今大会においては、スプリント、パシュート、ミックスリレー、ミドルの全4種目が開催される予定です。

なお、今回大会は、JOA（日本オリエンテーリング連盟）からの選手推薦の元、JOC（日本オリンピック委員会）が日本代表選手団を組み、ロシアに派遣いたします。そのため、大会参加にあたって必要な費用（代表スーツ、ユニフォーム、渡航費用、選手村費用等）はJOCの負担、つまりは税金（国費）によって賄われる予定で、代表選手は、オリエンティアだけではなく全国民の期待を背負う日本代表として、規律ある行動とスポーツマンシップを求められます。

スキーオリエンテーリングに関しては、現時点で男子1名、女子1名が日本代表枠として内々示されており、2018年12月15・16日に北海道で開催される選考会にて日本代表選手としてJOCに推薦する選手が決定する予定です。

●2018年度全日本大会について(業務執行理事：木村)

2018年度の全日本オリエンテーリング大会は以下の通り開催の予定で進んでいます。
要項公開までしばらくお待ちください。

第45回全日本オリエンテーリング大会（平成30年度大会）

開催日：2019年（平成31年）4月14日（日）

開催場所：栃木県日光市

種目：ポイントオリエンテーリング（ロングディスタンス競技）

クラス：「日本オリエンテーリング競技規則および関連規則類の運用に関するガイドライン」（平成30年5月12日改正）に基づくクラスを提供する。

主催：公益社団法人日本オリエンテーリング協会

主管：栃木県オリエンテーリング協会

大会窓口：有限会社ヤマカワオーエンタープライズ

協賛：(株)リテラメッド、(有)テックプランニング

【本大会の特徴】

トレインは、まだO-MAP化されたことのない範囲まで拡大する。ここは有限会社ヤマカワオーエンタープライズが長年の構想として暖めておいた超良質のエリアである。このトレインを使用して、威厳性・崇高性において、至高のコースを提供する。第44回大会が実施されたトレイン「椈の湖」以上に、全日本大会への憧憬を高めるトレインであると確信している。

●2021年の世界マスターズオリエンテーリング選手権(WMOC)が日本に決定！（業務執行理事：平島）

ワールドマスターズゲームズ(WMG)2021 関西でのオリエンテーリング競技は、アジア初のWMOCとなることがIOF理事会で決定しました。

これまで4年毎のWMGでは自動的にWMOCを兼ねて行われてきましたが、2016年IOF総会はこれを分離することを決定しました。そこでJOAはWMOC2021に立候補し、WMG2021 関西組織委員会と協力して見事招致に成功しました。ほかの候補はイタリア、ブルガリアでした。

これに先立ち、今年5月末にIOF事務局長Tom Hollowell氏が評価のために来日し、スプリントやフォレストの候補トレインを視察するとともに、WMG2021 関西組織委員会とも会議を行いました。また、ちょうどWorld Orienteering Day(WOD)の期間中で、神戸市再度公園や養父市大屋中学校でのWODのイベントにも参加され好評でした。

招致成功の要因は、競技の面だけでなくWMG組織委員会との良好な関係や地元でのWODのイベントなどの普及活動や取り組みが高評価につながったものと思います。これは、兵庫県オリエンテーリング協会の多大なご尽力によるものです。

WMGは34競技、59種目の予定で5万人の参加者を目標に、2021年5月14日から30日まで行われます。オリエンテーリングは以下の予定ですが、まだ決定ではありません。

*IOF Inventor に日程記載されました。近日中に立入禁止区域も公表されます。

- 5/14(金) WMG 開会式(京都)
- 5/21(金) Sprint Model/ WMOC 開会式 (神戸市)
- 5/22(土) Sprint Qualification (神戸市)
- 5/23(日) Sprint Final (神戸市)
- 5/24(月) 休息/移動日
- 5/25(火) Forest Model (養父市/香美町)
- 5/26(水) Forest Qualification (養父市/香美町)
- 5/27(木) Middle Final (養父市/香美町)
- 5/28(金) 休息日
- 5/29(土) Long Final / WMOC 閉会式 (神戸市)
- 5/30(日) WMG 閉会式 (大阪)

メダリストには、なんと WMG からと WMOC からの 2 つのメダルが授与されます。クラスは、W/M35 から 5 歳刻みで上限はありません。世界チャンピオンになる絶好の機会です。トレーニングに励んでメダル獲得をめざしましょう。



●平成 31 年度事業方針案について (副会長：村越)

JOA では、平成 29 年度事業計画から、全体を貫く事業方針を決定し、それをもとに各事業の計画を策定しています。理事会、委員会等で検討した最終案をお示しします。全日本リレー前日に、会員、登録者の方々からの意見を伺う場を用意する予定です。

【H31 年事業方針 (最終案)】

- ①日本導入以来 50 余年が経過し、誰でも取り組めるゲーム性の高い野外スポーツとして、オリエンテーリングは日本のアウトドアスポーツの中に根付いた。競技スポーツとしても世界選手権、その他の国際大会に恒常的に参加するだけでなく、フット、スキーおよびトレイルの世界選手権やアジア選手権の開催など、国際的なオリエンテーリング界へも貢献してきた。また、黎明期より諸外国からも高い評価を得てきた大会運営能力やナビゲーションスキルの指導力を蓄積した。これは、ロゲイニング、マウンテンマラソン等のナビゲーションスポーツやトレイルランニングの大会の普及にも寄与すると同時に、アウトドアの安全にも資している。
- ②競技人口の停滞や高齢化、競技力の向上が頭打ちになってはいる等の課題があるものの、平成 28 年度に実施した財政改革に対する会員・競技者の協力によって、当法人の財務は健全化の兆しが見える。その中で、JOC 承認団体から (準) 加盟への更なる動き、高い評価を得られた全日本大会の開催、E 権の抜本的な見直しを含めた競技規則の改定、一般へのナビゲーション指導に関する新たな資格制度の確立など、着実な実績も積み重ねつつある。一方、地方組織の活動活性化の兆しは十分ではない、広報体制やパブリックリレーション、海外への発信などについても課題が残されている。
- ③以上の現状認識を踏まえ、外部の協賛も含めたさらに安定した財政基盤を確立するとともに、その成果を会員・オリエンテーリング競技者へ還元し、以てオリエンテーリングの活性化を進める。また、スポーツ界のコンプライアンスへの疑義を生じる事態が多発する中、自律した活動者が多いことを誇りとし、マナーコード等の制定を通して、競技と自然に誠実に向き合うスポーツとしての地位を確立する。
- ④具体的には、普及指導においては、野外活動指導者として位置づけられてきた指導員制度を抜本的に見直し、コーチング制度として競技の発展に寄与するとともに、オリエンテーリングはもとより、アウトドアスポーツの健全かつ魅力的な発展に寄与する。また、時代にあった普及方法の探求を継続し、普及を推進する。競技会開催においては、主催大会・公認大会の質を向上させ、かつ持続的に開催するための戦略的な活動を行う。競技力向上に関しては、これまで同様国際競技会に恒常的に出場するとともに、トップ層とその下の層の有機的な相互刺激に基づく全体的なレベルアップ、特にジュニア層の競技力向上を積極的に図る。国際大会を継続して積極的に開催すると同時に、それを以て普及発展に資する。多角化した組織の再編による効率的な運営や、法人運営やオリエンテーリングの発展を担う次世代人材の育成も図る。

【解説】

①は歴史的経緯。基本的には変えない。②は近年の動向についての認識、③は②を踏まえた方向性、④はその具体的な施策について。(二重下線は、昨年からの修正・加筆部分。)

【参考】 平成30年度事業方針

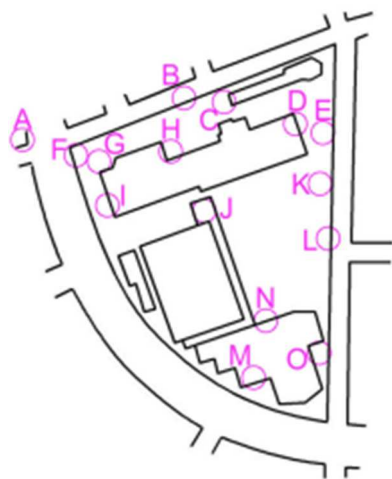
オリエンテーリング導入以来50年が経過し、誰でも取り組めるゲーム性の高い野外スポーツとして、オリエンテーリングは日本のアウトドアスポーツの中に根付いた。競技スポーツとしても世界選手権、その他の国際大会に恒常的に参加するだけでなく、フット、スキーおよびトレイルの世界選手権やアジア選手権の開催など、国際的なオリエンテーリング界へも貢献してきた。また、黎明期より諸外国からも高い評価を得てきた大会運営能力やナビゲーションスキルの指導力を蓄積した。これは、ロゲイニング、マウンテンマラソン等のナビゲーションスポーツやトレイルランニングの大会の普及にも寄与すると同時に、アウトドアの安全にも資している。一方で、競技人口の停滞や高齢化、競技力の向上が頭打ちになっている現状も指摘できる。組織においては、平成28年度に実施した財政改革によって、法人の運営は健全化の兆しが見えるが、財政が安定化する努力は依然必要である。

以上の現状認識を踏まえ、安定した財政基盤を確立するとともに、その成果を会員・オリエンテーリング競技者へ還元し、以てオリエンテーリングの活性化を進める。普及指導においては、野外活動指導者として位置づけられてきた指導員制度を抜本的に見直し、競技の発展に寄与するとともに、一般への指導方法を確立し、オリエンテーリングはもとより、アウトドアスポーツの健全かつ魅力的な発展に寄与する。また、時代にあった普及方法の探求を継続する。競技会開催においては、魅力ある主催大会・公認大会を増やすための戦略的な活動を行う。競技力向上に関しては、これまで同様国際競技会に恒常的に出場するとともに、トップ層とその下の層の有機的な相互刺激に基づく全体的なレベルアップを図る。予定されている国際大会を円滑に開催すると同時に、それを以て普及発展に資する。

●日本体育学会ランチョンセミナー報告 (松澤俊行：浜松学院大学短期大学部)

8月24日(金)、台風が過ぎ去ったばかりの四国徳島で、日本体育学会第69回大会が開催された。JOAはこの大会の協力団体に名乗りを挙げ、昨年に引き続きランチョンセミナー(昼休みに昼食を取りながら参加できるセミナー)を進行した。セミナーのテーマは「明日からできるキャンパスオリエンテーリング」。昨年も同じ演者(松澤)が同様のテーマで数々の実践事例を紹介したが、今年はまず昨年の振り返りから始め、新たなトピックも加えて話を進めた。50名の申込者は弁当配布時に確認したところ欠席もなく、終始真剣な表情で聴き入っている様子が見受けられた。

今回は事例の紹介にとどまらず、学会会場である徳島大学常三島キャンパスの案内図を用いてコントロール位置の候補地点に丸を付け、実際にコースを設定してみる時間も取った。セミナーで自ら座長を務めていたJOA山西会長の発案で、何人かの参加者に大型の地図に丸を記入してもらう一幕も見られた。この演習とその後の解説により、多くの参加者が実践へ向けての理解を深め、意欲を高めたと思われる。セミナー終了後には多くの質問を受けたが、その質問にも授業への採用を強く意識している内容が目立った。すでに授業で実践をしている大学教員も少なからず参加しており、貴重な情報の提供もあった。



教育現場でのオリエンテーリング実施を促進する活動は、普及というよりは社会貢献といった意味合いが強い。授業でオリエンテーリングが行われるだけでは、愛好者の増員や強化には必ずしも直結しないが、キャンパストレインでの競技会も増えた現代では、大学の授業でのオリエンテーリング実施を、間接的に強化につなげられる可能性も高まっている。全国の大学でキャンパスオリエンテーリング用のマップを整備し、授業へ協力すれば、大学側の理解も得られて練習会や大会が開催しやすくなり、学生競技者のトレーニング環境の改善にもつながるだろう。そうした社会貢献プラス強化に結び付く活動を進めつつ、来年以降の学会でも成果を報告し続け、賛同者、協力者を増やしていきたい。

浜松学院大学短期大学部の授業で実際に行われたスコアOの図。

簡単に手に入る案内図を用いて、短時間の準備で実施している。

●日本地図学会平成30年度定期大会シンポジウム報告

(小林 岳人：ES 関東 C・千葉県立千葉高等学校教諭・日本地図学会評議員)

2018年8月27日に富山大学で開催された日本地図学会平成30年度定期大会にて「オリエンテーリングと地図」というタイトルでシンポジウムの機会をいただいた。

日本地図学会は以前から、オリエンテーリング地図が学会誌「地図—空間表現の科学」の添付地図や、研究論文として掲載されるなど、オリエンテーリングとの関りを持っている。今回のシンポジウムは、来る2019年7月15-20日に、ICA (International Cartographic Association、国際地図学協会) が2年ごとに行う ICC

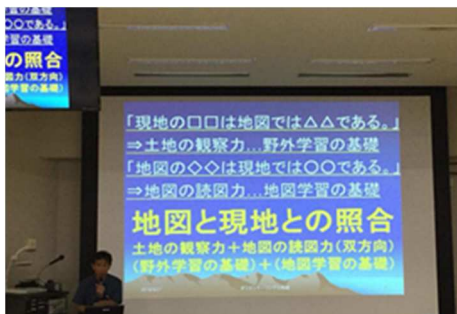
(International Cartographic Conferences、国際地図学会議) が東京お台場の日本科学未来館で開催されるため、その下見としてICAの役員の方々がこの定期大会の時期に来日されることになり、その一行にICA事務局長でありIOF (International Orienteering Federation、国際オリエンテーリング連盟) 理事でもあるLászló Zentai氏も含まれていたため、氏に関係するテーマということから企画された。ICCでは、地図デザイン、認知地図、山岳地図、地図教育、地図史、インターネット地図、GIS、地図帳、空間分析など、地図に関するあらゆるセッションが開催されるが、そのセッションの中にオリエンテーリングセッションもあり、さらに、会期中に会場の近隣の公園などで会議参加者のためのオリエンテーリングイベントも開催されている。ICCのオリエンテーリングイベントについてはICAのWebサイトの中に特設ページ (<https://icaci.org/orienteering/>) も作られている。これらに多大に尽力されているのが、Zentai氏である。Zentai氏はEötvös University (Hungary) の教授であり、IOFでは長く地図図式 (ISOM、ISSOM) の制定に尽力をされている。日本にもWOC2005の機会に2回ほど来日されてオリエンテーリング地図のマップクリニックを開催している。

今回のシンポジウムは、静岡大学の村越真氏とNishiProの西村徳真氏と私が登壇した。シンポジウムの骨子は、オリエンテーリングが培った見識のうち、地図学という分野にフィードバックできるものとして「地図作成」「地図認知」「地図教育」の三つの観点を考えた。

基調講演で村越氏がオリエンテーリングの歴史、日本への導入、海外の事情からオリエンテーリング競技と地図についての枠組を示し、研究史・実践史の両側面から、オリエンテーリングと地図の関わりを概観し、地図学全体への論点を紹介した。各論では「地図作成」の視点からの西村氏が最新のオリエンテーリング地図具体的作成方法と将来について、超精密レーザー測量と実際の0-map比較から地形表現方法を紹介、それをふまえて人間が見て「自然な地図表現」とはどういう特徴があるのかを考察、そして、航空レーザーデータの人工知能的な処理によって0-mapを自動生成させる可能性について言及した。「地図認知」の視点からは村越氏が、ナビゲーションの認知的プロセスを紹介し、そのプロセスが地図情報とどう相互作用しているかについて示した。これら「地図作成」「地図認知」を踏まえて「地図教育」の視点から、小林が具体的に、地理授業、総合学習、部活動、学校行事など学校教育におけるさまざまな教育活動の場面に見合ったオリエンテーリングの教育的価値を利用した事例を紹介した。

この後の総合討論ではオリエンテーリングによって得られる読図技能が日常生活や登山・ハイキングなどのレクリエーションや変災時の避難・帰宅に有用など社会に貢献する知識となること、普及・教育の観点での可能性をフロアの方々と交えて討論を行った。

最後にZentai氏からICAとIOFにおける両方の立場から総評として、オリエンテーリング地図の特徴(ユーザーが作る地図、利用側の視点や要求からの地図、世界共通の図式を持つ地図、ハイスピードの中での読図が要求される地図、ノンテキストの地図など)、そしてオリエンテーリングの効果(日常的な技能、見



知らぬ土地などでの技能、身体と精神のコンディションへの効果など) について述べられた。

シンポジウム全体を通じて、オリエンテーリング地図の持つ地図科学的な背景を伝えることができたのでは、と思う。特に、西村氏のオリエンテーリング地図作成の発表については、その緻密さ精密さなどに対して会場から多くの驚きの声が上がっていた。今後もこの学会のような場での発表を通じてオリエンテーリング界が持つ多くの知見を社会に人々に還元・貢献できるようにアイデアを考え、実行していければと思う。最後に、このようなシンポジウムの機会をいただき、オーガナイザーとして関わらせていただいたことに際して、登壇していただいた村越氏、西村氏、総評をいただいた Zentai 氏、そして、学会に参加しフロアから細やかな気遣いと支援をいただいた田島利佳氏には、多大なお力添えを頂いた。この場を借りて感謝いたします。

